令和３年度　社会　授業改善推進プラン

大田区学習効果測定　結果の分析

○ 問題の内容別正答率では、４年生、６年生は４分の３以上の項目において目標値を上回った。５年生は「ごみのしょりと利用」において目標値に近づく結果となった。
○ 領域別正答率では、４年生、６年生は１領域を除いて目標値を上回った。残る１領域も目標値に迫る結果が見られた。５年生は、全領域において目標値を下回った。
○ 観点別正答率では、６年生は全観点において、４年生は２観点において目標値を上回った。５年生は全観点で目標値を下回った。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
４年生、６年生において目標値を上回る結果となった。 青森県の地形についての地図の読み取りおよび北海道の位置と名称の理解の問題（５年生）について、目標値および昨年度の結果と比べて正答率が低い傾向が見られ、課題が残った。	６年生は目標値を上回る結果となった一方、４年生、５年生は目標値および昨年度の正答率を下回る結果となった。 資料から防災ボランティアと子どもが被害にあう事件の件数との関連を捉え表現する問題（４年生）において、目標値を下回る結果となり、課題が見られた。	４年生、６年生において目標値を上回る結果となった。５年生は目標値および昨年度の正答率を下回る結果となった。 資料に着目して工業がさかんな地域の特色や背景をとらえ表現する問題（６年生）において、目標値を下回る結果となり、課題が見られた。

課題〈今回の調査結果から〉

○４年「火災発生時の通報のしくみについて理解する」、５年「浄水場できれいな水がつくられるまでの様子について理解する」問題において、校内正答率が目標値もしくは昨年度の正答率を下回る結果となった。社会生活におけるしくみについて資料を使って調べ、その働きや役割を理解することが課題であることが分かった。見学や資料を使った調べる活動を主体的に行うとともに、調べて分かったことを関係図にまとめ、流れや仕組みが見えるよう指導の工夫を図ることが必要であるといえる。

○５年「会話文に着目して、都道府県名と位置の理解をもとに判断する」、６年「日本海側の気候についての理解をもとに、雨温図を判断する」問題において、校内正答率が目標値を下回った。日本地図や雨温図の読み取りなどの技能を授業などで身に付けさせることと合わせて、読み取ったことをもとに表現する学習活動を意図的に授業内で取り入れ、繰り返し指導していくことが必要であるといえる。

○各学年とも、記述式の問題において正答率が目標値を下回る結果となった。地図記号や都道府県名、世界の主な国名や大陸・海洋の名前などの基本的な知識、地図やグラフなどの読み取りの技能をもとに、資料から読み取ったことを自分の言葉でノートにまとめる活動、問題解決的な学習において学習問題に対して小単元で学習したことを比較・関連・総合し、学習問題に対する答え（自分なりに分かったこと）を短文で表現させる活動を取り入れていくことで、記述式問題に対しても苦手意識がなくなっていくであろう。